

① 藤井青銅 著

## 『教養としての「国名の正体」』

(柏書房)

現在、日本政府が国家として正式に認定している国の数は、日本を含めて196か国あります。我々のよく知っている国、あまり聞いたことのない国、と様々ありますが、当然、それぞれにその国を示す名前があります。本書では、国々の名前を、「地理命名」「動植物命名」「人名国家」などの章に分けて、起源を探っています。また、章ごとに同じ観点から、では日本はどうか、も併せて述べられています。

国名の由来には、もっともらしいものもあれば、実は結構いい加減な理由で定着してしまったものもあるというもあり、由来が一つとは限らないものもありと、バラエティに富んでいます。堅苦しくない文章で書かれており読みやすく、このグローバル時代に知っていると、ちょっと面白い知識、が満載な一冊です。(N.T.)

290.34 ||Fuj

③ 竹内久美子 著；もじゃクッキー イラスト

## 『悪のいきもの図鑑』

(平凡社)

動物。本能と種の存続のみに生きていていると思われがちですが、「悪」と呼ばれる投資さや特殊能力を持つものもいます。

カッコウは自分の雛を他の鳥に育てさせるため、卵を他の鳥の巣に、それもその鳥の卵に似せたものを産み落とします。それは、育児への労力を1つでも多く卵を産む方に回したいという意図から来るそうです。他にも巣作りをさぼった仲間を「お仕置き」する鳥、オスがメスの体内に寄生して一生を過ごす魚など、人智を超える生態や行動原理を持った動物が数多く登場します。

「悪」とは単に忌み嫌われるだけのものではありません。やり方次第では、自分の一族の存続ばかりか他種族との共生すら可能になります。そんな彼らの生き様を、覗いてみてはいかがでしょうか。(H.I.)

480 ||Tak



② 紫紅社 編

## 『英語で話す「京都寺社ガイド」』

(IBCパブリッシング)

京都市内には約1,680の寺院と約400の神社があり、京都の千百年の永きにわたる歴史と文化を伝える重要な役割を果たしています。そしてそれら寺社が持つ魅力は多くの外国人観光者を魅了し、京都が世界的な観光都市である事の一端を担っているのです。

本書では精選された50の寺社が日本語と英語の対訳で紹介されています。京都の寺院・神社の歴史を学ぶことができると共に、英語でその魅力を外国の方たちに伝える語学力を養える構成となっています。

新型コロナウイルスの蔓延により現在の京都の情景はわずか半年前と全く異なるものとなりました。この状況が収束し、再び多くの外国人観光者が京都を訪れる事を願いながら、本書に触れていただければと思います。(H. M.)

837.7 ||Eigo

④ 吉田裕子 著

## 『明日の自分が確実に変わる 10分読書』

(集英社)

あなたの持つ1日、24時間のなかの“10分”を読書にあててみませんか？

世の中には数えきれない数の本がある。そしてそれら本の中には、あなたの人生にとって骨肉となり得る知識や学び、物語が無限に詰まっている。現代社会に生きる私たちにはとにかく時間が無い。ある人は本を読んでも何かの役に立っているとすぐには実感しづらく、またある人は必要な情報は本ではなくインターネット上で十分に得られる、と考える…ついつい、本を読むことから遠ざかりがちの毎日。ただ、日々の生活の中で「本を読んだ」蓄積は、着実にあなたの語彙力や客観力、想像力を育てている。

そんな1日たった10分の読書習慣で、自分の可能性が広がる！と知ることができる一冊です。(M.T.)

019.12 ||Yos